

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	学習課題を明確にし、協力し合い課題解決させていくことで、児童が主体的に学習に取り組めるような授業を目指す。	中間評価	教員が互いに授業を見合ったり、話し合ったりしながら、児童が主体的に取り組めるような授業展開を学び合っており、今後も研鑽を続ける。	最終評価	児童に学習課題をしっかりと把握させ、視点をはっきりさせた話し合い活動や自己解決の時間を設けることで、児童が主体的に学習に向かう姿が見られた。
		児童が進んで行動できるように、教室内の表示や掲示物の内容や配置を工夫する。児童が自分の考えや気持ちを表現できるように、学校全体で取り組んでいく。		学校全体でハンドサインを掲示し指導することで、自分の考えを表現する児童が増えてきている。		各学級児童の実態に合わせ工夫した。特にハンドサインは学校共通での取り組みであるので、より定着し学習で活用できると考えられる。
環境づくり						

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	・ひらがな、カタカナ、既習した漢字はほとんどの児童が読み書きできる。主語・述語だけの簡単な文は、書くことができる。 ・音読は繰り返し練習することで、声の大きさを意識して、はっきりと気持ちを込めて読むことができるようになってきている。	・文字を雑に書いてしまい字形が、整わない。 ・文を書くときに、必要などころでの句読点を打つことが苦手である。 ・促音や助詞を正しく使うことが十分でない。	・日頃から「とめ・はね・はらい」を意識させ、既習したひらがな・カタカナ・漢字はドリル等を活用し宿題等で練習を重ねていく。 ・正確な文字が書けるように何度も繰り返しをするよう指導する。 ・授業の振り返りで学習感想を書くことで、担任が確認し、個別に指導していく。 ・授業中やノート指導の際に声掛けをして意識付けをしていく。	・「とめ・はね・はらい」を意識して文字を丁寧に書く児童が増えた。 ・個人差はあるが、正しく句読点を打つことができるようになってきた。 ・促音や助詞についても正しく使うことができるようになってきた。一方で、促音を抜かしてしまったり、正しい助詞を使って文を書くことが苦手だったりする児童もいる。 ・少人数ではあるが「」や句読点などを書く際、マス目の正しい位置を意識せずに書く児童が存在している。
	算数	・計算は、指や算数ブロックなど具体物を使う児童もまだ多いが、繰り返し上がりができるようになってきている。 ・ノートに自分の考えを書くことが少しづつできるようになってきている。	・計算をすることだけで、間違いに気付くことが苦手な児童が多い。 ・文章を読まず、思い込みで考えを書いてしまう児童が多い。	・見直しすることを声かけし、定着できるように指導する。 ・問題文を正しく読み、分かる内容にチェックを入れて視覚的に理解しやすくなるように指導する。そして、自分の考えだけでなく、多様な考えがあることに気付けるようにする。	・テストやワークシートなどで、提出前に見直しをするようになってきた。しかし、見直しが不十分な児童もいるため、継続して指導をしていく。計算も、半具体物を使用しなくても答えを求められることができるようになった。 ・自分自身で問題文を読み、必要な内容にチェックを入れて（数字やキーワードなど）立式することができるようになってきた。
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月) → 最終評価 (2月)
2	国語	習った漢字を活用することが苦手な児童が多い。 書く学習で主語・述語が無い文を書いたり、文に合わせた助詞を適切に使うことが不十分だったりすることが多い。	・習った文字を意識して活用していないことが多い。 ・人に伝わるように、自分の気持ちを文章に表わせない児童がいる。	・いろいろな教科の授業の中で習った文字を使って書くように指導する。 ・「いつ・どこで・だれが・何をした」などを意識して文章を書くように指導する。	・習った文字の定着のため、引き続き指導している。 ・主語・述語の学習で、文の簡単な構成を理解することができた。それらを意識して書くようになってきている。
	算数	見直しが不十分のため、簡単な計算間違いをすることがある。 問題の内容を考えて、自分の考えを表現することが苦手なところがある。	・自分の考えを図や言葉で表現できないときがある。 ・分かっているもほかの人に説明できないことが多い。 ・見直しが不十分のため、計算ミスに気付かない児童が多い。	・問いに対する自分の考えや答えをノートに書く時間を確保する。 ・ペア、グループ、全体など説明する場面を設定し、経験させていく。 ・自分の計算を見直す習慣を身に付ける。	・書く時間の確保や繰り返しの学習によって、書き方が分かり表現できるようになってきている。 ・考えを説明する場面を設けて、引き続き指導している。 ・見直しについては、引き続き声掛けが必要である。 ・九九の定着を図る。
3	国語	調「読むこと」の説明的文章の読み取りについては全問9割以上の理解を示している。 調領域「話すこと聞くこと」の話の聞き取りについては調査中唯一目標値を下回る結果であり、話の中で大事なことを落とさずに聞く力については、まだ苦手意識をもっている児童が多い。	・聞く能力について、大事なことに気を付けて聞くことができない児童が多い。 ・書くことが自力で見付けられない児童や、見付かっても簡単な「始め・中・終わり」を意識して書くことを苦手としている児童が多い。	・基本的な学習環境を整えるところから指導を始め、話の要点を意識する姿勢を身に付けさせる。発言をすることだけでなく、友達の発言にも傾聴する習慣を付けるべく指導する。 ・毎週末に家庭学習で日記を課すなど日常的に文章を書く学習環境を整え、経験した出来事を文章にまとめる習慣を身に付けさせるよう継続的に指導する。	・学習した用語を掲示することで、学年ごとの系統性を意識した授業づくりができた。 ・音読だけでなく、漢字の学習も当該学年での学習内容にもれないように宿題等で学習の木かいを増やす。 ・読書の質・量を高めるために読書記録をつけ、読書に親しむ経験をさせるようにする。

	算数	<p>調かけ算については9割以上の理解を示している。</p> <p>調いくつもの単位でその量を表す「水のかさ」について、その関係についての理解が不十分な児童が多い。</p> <p>調1000までの数の設問について、他の設問に比べて正答率が低い。具体物等を使って考えられなかったり、その量感をつかみにくかったりする学習内容に苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題では、文意を捉えることができず正確な立式をすることが苦手である。</li> <li>自分の考えを発表するとき、分かりやすく説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題の文意を丁寧に読み取らせ、正しい立式ができ、答えを求めることができるよう、問題提示等の工夫を行う。</li> <li>算数でよく使う語彙を指導しつつ、説明をする場面を授業の中で多く取り上げるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に決めた取り組みはおおむね実行できている。</li> <li>東京・ベーシックドリルを毎日の宿題に取り入れ、既習事項の定着を図る。</li> <li>授業はじまり3分のミニテストは、学習している単元に即した内容にすることで、より一層その単元では指導事項の定着を図る。</li> </ul>	<p>学学力定着度調査の結果では、どの内容も3～10ポイント目標値を上回っていた。ベーシックドリルの取り組みや、習熟度別指導の成果が上がってきたと考えられる。</p> <p>学課題としては、習熟の度合いが十分とは言えない児童の学力を上げ、定着させることと、時刻・時間や長さや重さの量感が身に付いていない児童への指導を継続していくことである。</p>
	国語	<p>調どの分野も目標値を上回っている。しかし、学習内容を十分に理解できている児童とそうでない児童が各々多く存在し、学力が二極化している状況である。問題の正答率の低かった内容は作文であるので、書く指導を徹底する必要がある。</p> <p>学宿題では、主に漢字や音読を中心に自宅学習を繰り返している。ローマ字や音訓など言語事項の習得が他の領域に比べてできていないように見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章に誤字脱字が多くみられる児童が存在する。また助詞「は」「を」「へ」を正しく使うことができていない児童も見られる。</li> <li>言語事項の内容を定着させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法に特化した視写スキルを活用し、1年間通じて取り組ませるようにする。</li> <li>言語事項についての自宅学習を準備することで、反復練習に取り組ませるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写スキルを1学期に使用し、児童が書くことの基本的な内容を確認することができた。2学期以降は「作文」を書くことを通して自分が体験したことや感じたこと、考えたことを文法や段落に気を付けながら書く力を伸ばしていく。</li> <li>言語事項について、反復練習を通してある程度の定着が見られた。児童の実態を把握しながら内容を精選し、引き続き取り組ませていくようにする。</li> </ul>	<p>調どの分野もほとんど目標値を上回っている。作文について目標値をわずかに上回る程度である。段落等の書き方についての理解できている様子が見られるため、今後は文章を書くときに目的に合わせて内容を具体的に記述する力を向上させる必要がある。</p> <p>学言語事項の理解について個人差が見られる。反復練習を取り組む習慣が身に付いた児童が伸びているため、引き続き学習習慣を身に付かせたいことを目指す。</p>
4	算数	<p>調どの分野もほとんど目標値を上回っている。目標値を下回った項目は、時ごとと時間、長さであり、基本的な項目よりも、生活に生かすような発展的問題を苦手としている。</p> <p>学習熟度別指導を繰り返したので、自分の力に合った進み具合で学習しており、意見の発表も盛んにする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容を生かして思考し、課題を解決することが苦手である。</li> <li>発言を苦手としている児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の終末で、児童の実態に応じた発展的な問題をまとめたワークシートに取り組ませるようにする。</li> <li>引き続き少人数指導を繰り返すとともに、児童の習熟度に見合った問題を提示することで自信をもって発言する姿勢へとつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の終末に限らず、授業の中で発展的な問題をまとめたワークシートに取り組ませた。また、身の回りの様子を教材として扱うことで学習内容と生活経験の関連性を強調した。</li> <li>習熟度別指導により、児童一人一人の思考を把握し価値付けることができたため、自信をもって考えを発表する姿に結び付いた。</li> </ul>	<p>調全体的なみると、目標値を上回っている。しかし「億・兆」といった数字の相対的な大きさの把握や数法での読み・題意を捉えておく説明することを苦手としている傾向がある。今後は大きな数について知識・理解を定着することや他の人の思考についても説明するような学習活動が必要であると思われる。</p> <p>学習熟度別指導を実施することにより、児童の学習内容に対する理解が深められた。また児童の実態に応じた課題を用意することができた効果があった。今後は児童の考えを説明するなど、主体的思考以外の思考も生まれるような授業づくりを目指していく。</p>
	国語	<p>調全体の平均正答率は区の平均を上回っているが、活用においては区の平均を下回っている。また、内容別にみると、「漢字を書く」「新聞記事の内容を発表する」というところで区の平均を下回っている。領域別に見ると、「話すこと・聞く」ことで正答率が低かった。学力調査においては、国語の解答時間が足りず、最後になるにつれてポイントが下がる傾向にある。</p> <p>学宿題では、主に漢字や音読を中心に自宅学習を繰り返している。しかし、漢字の定着には個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習熟については個人差が大きい。</li> </ul> <p>・まとまった量の文章を、構成を考えて書くことを苦手とする児童が存在する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの新出漢字が出てくるので、家庭学習や朝自習の時間に漢字学習を取り入れていく。また、小テストでは完全に覚えるまで繰り返し再テストを行うようにする。</li> <li>書く活動を増やし、テーマを決め、決まった量の文章を決まった時間に書く経験を積ませるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習、朝自習の時間を使って学習を進めているが、力を少しずつ伸ばしてきている。しかし、当初の個人差が縮まったわけではないので、引き続き課題の添削やテストの実施等で適宜、指導を展開していく。</li> <li>国語の授業を中心に書く活動を取り入れてきたが、時間内に書く文章量については増えてきている。しかし文章構成の上達については個人差があるので、例文を示したり、ワークシートを工夫したりしてより多くの児童が上手に文章を書けるよう指導を展開する。</li> </ul>	<p>学家庭学習、朝自習の時間などを使って学習を進めるが、小テストでの補習(再テスト)等を実施することで正確に書けるようになった児童が増えた。漢字を丁寧に書く指導を継続した結果、とめ・はな・はみ 等が正確に書けるようになった児童が増えた。</p> <p>調書く活動については、個人で見るとその力を伸ばしているが、得意な児童と苦手の児童との書く力の差を大きく縮めることができなかった。引き続き指導を丁寧に展開していく必要がある。</p>
5	算数	<p>調どの領域、どの観点においても目標値、区平均値、全国平均値を上回っている。しかし、問題別に見ると、作図の問題、角の計測の問題が平均値を下回っている。細かな作業が必要とされる特定の領域の技能面では支援が必要であると考えられる。一方で、計算のきまりの問題では、平均値を大きく上回っている。児童が特に苦手意識をもつ傾向がある単元なので、学習に際して復習も重視してきた。その成果が表れている。</p> <p>学全単元を通して少人数指導を行ってきた。各コース毎に進度を調整し、問題解決学習も取り入れてきたので、活発に意見を言える児童が多く見られる。自宅学習として、東京ベーシック・ドリル、計算ドリルを繰り返し行ってきたので、基礎的学力は概ね定着しているが、個人差も見られ、支援が必要な児童も存在する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定規やコンパス、分度器などの器具を使い、合同な三角形の作図をすることに課題のある児童が存在する。</li> <li>区の学力調査の結果から、A層B層に属する児童が多い一方で、D層に属する児童も児童数の1割程度おり、学力差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作図や角の計測などは丁寧に指導していきたい。</li> <li>昨年度は算数を苦手とする児童に対して、理解度を確認するための小テストを繰り返したことで一定の成果を上げることができた。小テストは今年度も続けて行く。少人数指導では、習熟度に合わせた教材開発を行い、算数への興味・関心を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の単元を中心に、実際に用具を使って体験的に計測や作図をする活動を積極的に取り入れている。</li> <li>少人数指導の際は、習熟度に合わせて教材開発を行うことで、苦手な児童については基礎の定着を図る時間、得意な児童については多角的な考え方で学習内容を応用する時間を確保し、内容の理解に加え、算数への興味関心をもたせることができた。</li> </ul>	<p>学図形の単元では、立体の模型を用意するなど、体験的な学習活動を展開することは、より具体的に学習内容を理解することに有効であった。</p> <p>学年間を通し、習熟度にあわせて教材開発を行い、学習内容へのアプローチの仕方を変えることで、算数への興味関心をもたせることができた。</p> <p>調問題演習に取り組む際に正しく計算ができないなど既習の学習事項で理解不足が原因で正解が出せないことがあった。引き続き前学年の内容も含め復習に取り組ませるなど確実な学習理解に向けて指導をしていく。</p>

	<p><b>国語</b></p> <p>調全体の平均正答率は区・全国の平均を上回っている。観点別に見ると、全ての観点の正答率が全国を大きく上回り、特に「話す・聞く能力」「読む能力」の正答率が全国を大きく上回った。正答率分布で考えると、正答率が80%以上の児童の割合が8割である一方、正答率が50%未満の児童が全体の1割程度おり、これらの児童の正答率を上げていく必要がある。</p> <p>学自宅学習では、主に漢字や作文を中心に繰り返し取り組んでいる。その成果もあり、5年生の段階では「書く能力」のポイントが区を下回っていたが、今回の結果ではポイントが上回ることができた。しかし、依然として作文には個人差が大きいことが課題であり、個別指導などを行い書く力の指導が必要である。</p>	<p>・二段落構成で自分の意見と理由を書き分けることが十分でない。</p>	<p>・前年度から引き続き、週ごとにテーマを決めた作文の宿題に取り組む。</p> <p>・二段落構成（自分の意見と理由）をより具体的に文章に書く指導を行う。</p> <p>・授業の中で学習感想を書くことを習慣化し、自分の気持ちや思いを表現する機会を多く取り入れる。</p> <p>・二人組やグループを活用して、感想を交流したり、作文を読み合ったりする場を意図的・計画的に設ける。</p>	<p>・作文の宿題は日記だけではなく、事実と考えを書き分ける報告形式の文章、書き出しや説得力を高める工夫を取り入れる文章など、学んだことを生かせる課題に取り組み、継続的に指導をしている。</p> <p>・「できた・できなかった」だけではなく、めあてに対する振り返りの視点をもって、自分の考えや気持ちを具体的に感想に書くよう指導を行う。</p> <p>・共通点や相違点を考えながらの話し合いや交流の時間を意識的に設定している。意見が対立したときの対処など、小グループでの話し合いの仕方をさらに充実させる指導を行う。</p>	<p>調区の学力調査では、どの領域・観点においても区の平均正答率、全国平均正答率を上回っている。特に、「記事を読んで意見文を書く」という内容で正答率が顕著に上回った。継続してきた書く指導、既習事項を意識した宿題作文で効果が見られた。</p> <p>学めあてに対する振り返りの視点をもって感想を書くことで、「理解したこと」「そこから考えられること」という具体的な内容で感想を書ける児童が増えた。</p> <p>学交流の時間を意識的に設定したことで、他の児童の意見について、自分の意見との共通点や相違点を意識しながら聞くことができるようになってきた。</p>
6	<p><b>算数</b></p> <p>調全体の平均正答率は区・全国の平均を上回っている。観点別に見ると、全ての観点の正答率が全国を上回り、特に「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。正答率分布で考えると、正答率が80%以上の児童の割合が6割である一方、正答率が50%未満の児童が全体の1割程度おり、これらの児童の底上げを図っていく必要がある。</p> <p>学自宅学習では、授業の進度に合わせた計算ドリル、プリントを行うとともに、東京ベーシック・ドリルを活用して前年度の積み残しを減らすように繰り返し取り組んでいる。また、単元を通して習熟度別指導を行ってきた。習熟度別に児童の反応を考えて授業を組み立て、特別な配慮が必要な児童には、ヒントカードなどの支援など行っている。授業全体としては活発に意見を言える児童が多く見られる。こうした取組みから基礎的な学力は概ね定着しているが、個人差も見られる。</p>	<p>・小数どうしの乗法において、そのきまりをよく理解し、小数点の位置が移動することの理解が十分でない。</p> <p>・合同な三角形の作図指導において、三角形の合同についての理解を深めていく必要がある。</p>	<p>・小数どうしの乗法、合同な三角形の作図の復習は東京・ベーシックドリルを活用し、小数の位置が移動することや3つの方法を用いて作図するなど具体的な指導を行い、積み残しを減らしていく。</p> <p>・授業の中で実際に用具を使い、測量や作図をする活動を多く取り入れる。</p> <p>・少人数指導で、習熟度に合った教材を用意し、学力の向上を図る。</p>	<p>・東京・ベーシックドリルを日常で活用するだけではなく、理解が不十分である単元はドリルとは別のプリントで重点的に振り返りの学習をするなど、積み残しを減らす指導を継続して行う。</p> <p>・図形の単元を中心に、実際に用具を使って、体験的に測量や作図をする活動を授業に取り入れていく。</p> <p>・毎時間の授業で扱う問題を習熟度別クラスの児童の、実態に応じて、自力で解決ができる程度の内容にした。習熟度別少人数指導加配教員との連携を図り、児童の理解の状況を共有することで、個への対応をさらに充実させていく。</p>	<p>学東京ベーシック・ドリルを活用したことで、既習の内容の復習をするとともに、理解が不十分だった児童の前年度の学習内容をフォローすることができた。</p> <p>学図形の単元、展開図や立体という内容では、デジタル教材で視覚的に捉えやすくする工夫をし、体験的な学習活動を展開することができた。</p> <p>調区の学力調査の結果、「数と計算」「量と測定」の領域については、区の平均正答率を若干下回った。この点については、引き続き前学年の内容も含め重点的に復習に取り組ませるなど、確実な学習理解に向けて指導をする。</p>
	<p><b>音楽</b></p> <p>・進んで表現しようとする児童が多くみられる。</p>	<p>・思いや意図をもって演奏しようとする力が弱い児童が見られる。</p> <p>・器楽の技能に個人差が見られる。</p>	<p>・音楽を構成する要素を手掛かりに、2人組やグループで曲想を工夫する活動を取り入れる。</p> <p>・全体指導に加えて個別指導を行う。</p>	<p>・グループでのアンサンブルや2人組での聴き合いを行ったことにより、思いを表現につなげられる児童が見られた。今後も行っていく。</p>	<p>・グループや2人組での活動聴き合いを行い、友達演奏思いを聴くことにより、自分の表現をよくしようとする姿勢が見られた。今後も行っていく。</p>
	<p><b>図工</b></p> <p>・概ね意欲をもって課題に取り組んでいる。</p>	<p>・課題には取り組むが、自らのめあてをもって、計画的かつ主体的に学習活動をすすめることを苦手としている児童がいる。</p>	<p>・毎時間めあての確認と振り返りを（ワークシート利用などで）行い、自分自身で見通しをもって、計画的に取り組めるようにする。</p>	<p>・ワークシートに毎時のめあてと振り返りを記述することを続けている。考えや発想を整理することができて、自身の取り組む学習内容を把握しやすくなっている。</p>	<p>・毎時間の振り返りを行ったことは、計画的に取り組むための意識づけに有効だった。ワークシートの改良を重ねて以後も持続させていく。</p>
	<p><b>特支</b></p> <p>・自己肯定感が低い児童が多い。</p> <p>・視写や作文など「書くこと」に関して困り感を抱えている児童が多い。</p> <p>・コミュニケーションに課題のある児童が見られる。</p>	<p>・自己肯定感が低いことから学習に意欲的に向かうことができない一因となっている。</p> <p>・「書くこと」については全教科・領域において課題がある。</p> <p>・相手の気持ちを想像することが難しかったり自分の考えや気持ちを適切に表現することが難しかったりすることで、人との関係をうまく作ることが難しい。</p>	<p>・「頑張りマーク」など視覚化した教材を使い、褒める機会を多く作ることで達成感や自信をもたせるようにする。</p> <p>・読みのプログラム（MIM）を活用したり、特性に合わせた指導を行ったりするとともに、変容を記録し指導の重点を明確化する。</p> <p>・グループ学習では、ソーシャルスキルの課題を取り入れ、学級に汎化させる。</p>	<p>・ソーシャルスキルトレーニングや自己の振り返りの活動を行ったことにより、自信をもって取り組むことができるようになった。</p> <p>・スモールステップで人との関わりを促す活動を取り入れたことにより、少しずつ自分の考えや気持ちを表現できるようになった。</p> <p>・ICT機器の活用により個に応じた学習の指導ができた。書くことについては、引き続き重点的な指導が必要である。</p>	<p>・児童が苦手と感じている学習内容で個々の特長に応じた課題設定や意欲を促した活動を行ったことにより、少しずつ自信をもって取り組むことができるようになった。</p> <p>・小集団での指導を中心にスモールステップで人との関わりを促す活動を取り入れたことにより、クラスでも自分の考えや気持ちを表現できるようになった。</p> <p>・ICT機器の活用により、さらに個に応じた学習を設定し、指導を行うことができた。</p> <p>・書く活動については、特別支援の観点から継続性のあるプログラムの作成が必要である。</p>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。